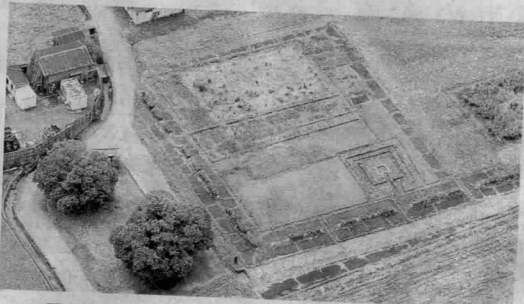


「飛鳥・藤原」 世界遺産に推薦へ

政府 26年登録目指す



飛鳥宮跡=2022年9月、奈良県明日香村



高松塚古墳=2014年10月、奈良県明日香村

政府は28日の閣議で、奈良県の「飛鳥・藤原の宮都」を世界文化遺産候補として国連教育科学文化機関（ユネスコ）に推薦する方針を了解した。2026年の登録を目指す。

阿部俊子文部科学相は閣議後の記者会見で「登録が実現するよう関係自治体と連携し取り組んでいく」と述べた。ユネスコへの推薦書の提出期限は31日で、政府は近く提出する。

ユネスコ諮問機関の現地調査や勧告を経て、26年夏の世界遺産委員会で登録の可否が審議される見通し。
飛鳥・藤原は、日本で初めて生まれた古

代国家の宮都の遺跡群。飛鳥宮跡や藤原宮跡、高松塚古墳などで構成される。文化審議会は「中央集権体制が誕生、成立した過程を、宮都の変遷から示すことができる唯一無二の資産だ」と評価した。

文化審は23年、遺産の保護が不十分だとして推薦を見送るよう意見を出したが、昨年9月には、遺産は十分な保護を受けており「顕著な普遍的価値が認められ得る」として推薦候補に選出した。

世界遺産を巡っては、昨年「佐渡島の金山」（新潟県）が世界文化遺産に登録され、自然遺産を含む国内の世界遺産は計26件となった。